

平成21年度 宗像市青少年センター施設の管理及び運営状況

(1) 利用団体登録状況(平成22年3月31日現在)

・・・28団体

(2) 平成21年度 宗像市青少年センター 利用状況

①会議室

平日昼間170回(82%)、平日夜間11回(5%)、土・日・祝日26回(13%)

②多目的ホール

平日昼間47回(49%)、平日夜間15回(16%)、土・日・祝日33回(35%)

③団体別利用回数

子どもの居場所づくり事業に関係する団体

：会議室利用回数 年間13回、多目的ホール利用回数 年間10回

発達支援センターでの利用

：会議室利用回数 年間27回、多目的ホール利用回数 年間34回

学校適応指導教室での利用

：会議室利用回数 年間43回、多目的ホール利用回数 年間0回

その他の会議等での利用

：会議室利用回数 年間30回、多目的ホール利用回数 14回

④稼働率

会議室の稼働率：平日昼間76%、平日夜間・土日祝29.5%、通年63.8%

多目的ホールの稼働率は：平日昼間28.8%、平日夜間・土日祝35.7%

通年30.6%

※一年を通した両設備の稼働率は47%である。

⑤今後の課題

平成22年度の課題としては、引き続き利用の啓発を行い登録団体の増加を図る。また、青少年健全育成団体の活動拠点としての役割をPRしていく。

※特に、青少年の居場所づくりに関する活動の拠点としての活用については、

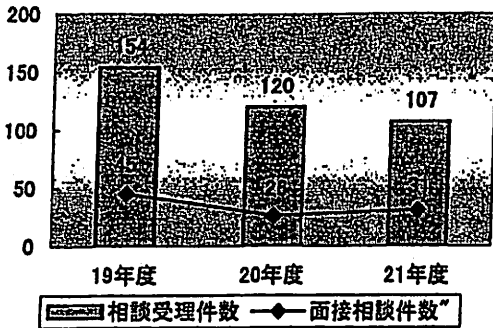
- ・海外研修事業 OB・OG 会の活動拠点としての利用(会議の実施と合同同窓会の開催)を進めることにより、中・高・大学生に対する利用PRと活用の啓発を行う。
- ・子どもまつり子ども実行委員会の準備・打合せ等の活動拠点として利用を行う。また、活動を通じて、小・中・高・大学生に対する利用PRと活用啓発を行う。
- ・わくわく児童館の中・高校生企画実施のための活動拠点とすることで、小・中・高校生に居場所としての活用PRを行う。

以上の3つの活動を重点課題とし、活用の啓発を行っていく。

(3) 平成21年度 宗像市青少年センター 相談業務報告

1. 一般相談状況

①相談件数



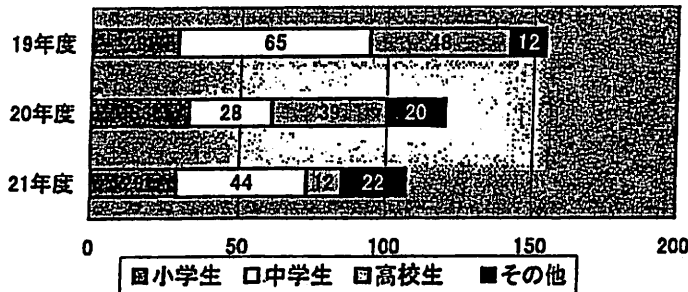
相談件数は年々減少傾向にある。理由は、他の相談機関の増設に伴い、それぞれの専門機関へ分散した結果と考えられる。
平成20年度からは、継続相談が増加傾向にあり、それに伴い面接相談の割合(29%)が増加している。
今後も、個々のニーズに合わせた柔軟な相談体制が必要である。

②相談内容別受付状況

年度		学業	いじめ	友人関係	対教師	不登校	進路	その他学校生活	身体	性格	性	親子関係	夫婦関係	家庭の経済問題	しつけ・生活習慣	家庭生活	家出	盗み・万引き	非行・シンナー	障害・就学	その他	計
		19	件数	4	3	7	0	49	7	34	3	0	12	8	0	0	12	1	0	0	1	2
19	%	2.6	1.9	4.5	0.0	31.8	4.5	22.1	1.9	0.0	7.8	5.2	0.0	0.0	7.8	0.6	0.0	0.0	0.6	1.3	7.1	100%
20	件数	0	6	11	3	29	8	7	3	0	15	10	0	0	6	1	0	6	1	2	12	120件
20	%	0.0	5.0	9.2	2.5	24.2	6.7	5.8	2.5	0.0	12.5	8.3	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	5.0	0.8	1.7	10.0	100%
21	件数	4	9	7	4	27	1	6	5	0	10	7	0	0	3	7	1	0	2	5	9	107件
21	%	3.7	8.4	6.5	3.7	25.2	0.9	5.6	4.7	0.0	9.3	6.5	0.0	0.0	2.8	6.5	0.9	0.0	1.9	4.7	8.4	100%

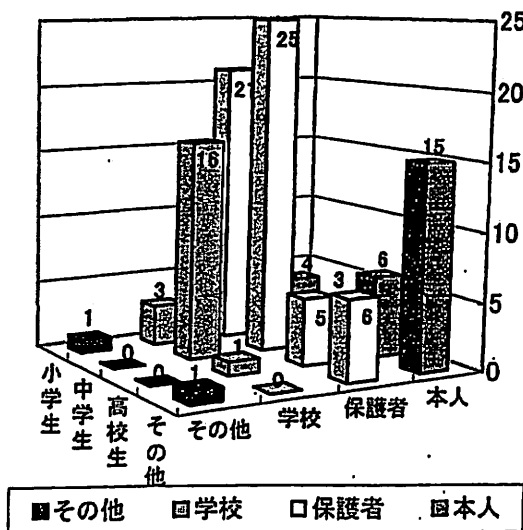
例年、不登校・学校生活に関する相談が多い傾向にある。21年度は、相談をためらう電話や、相談員や施設に関する問い合わせの電話が数件みられた。また、18歳以上の相談者から、性や身体に関する相談、保護者から成人した子どもの引きこもりについての相談もみられた。今後も、教育相談のみならず、青少年支援に関する相談は増加するものと思われる、関連する他の相談機関との連携・協力は必要不可欠である。

③学職別相談件数



例年、小学生階層が3割程度、21年度は中学生階層が4割を占め、例年通り小中学生階層が高い割合を示している。また、高校生以上の相談が多い状況であり、精神疾患に関する内容・就労に関する相談も少なくなく、他機関を紹介するケースも多い。

④年職別・相談者別相談件数 (平成21年度)



学職別・相談者別の相談では、小中学生階層では保護者からの相談が多く、高校生以上になると本人からの相談も増える傾向にある。
学校適応指導教室を併設している為、入室に関して学校関係者からの相談も多く、その後保護者との相談、入室につながるケースも多い。学校・青少年センター・保護者との連携をとりながら支援をすることが重要である。

(4) 平成21年度 宗像市学校適応指導教室業務報告

① 活動内容

- (ア) 学習 午前中 45分×3コマ。時間割をもとに自主学習・個別指導が中心。
- (イ) 午後活動 午後 45分。運動、音楽活動、創作活動、野菜・草花作り等を実施。
- (ウ) 特別行事 調理実習、野外活動、宿泊研修等。ボランティア講師による文化活動等。

② 入室状況

(ア) 年度別入室者

(人)

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学生	1	0	1	0	0	0	0	3
中学生	23	23	32	20	23	20	12	13
合計	24	23	33	20	23	20	12	16

(イ) 平成21年度入室者内訳

(人)

	男 子	女 子	全体 (学年別)
小学生	2	1	3
中学1年生	0	1	1
中学2年生	2	4	6
中学3年生	2	4	6
全体 (性別)	6	10	16

③ 学校校復帰状況

(ア) 平成21年度通室生の学校復帰状況

(人)

	通室生	うち学校復帰者数	うち継続通室数
小学生	3	3	0
中学1年生	1	1	0
中学2年生	6	1	5
中学3年生	6	6	0
全体	16	11	5

(イ) 平成21年度通室生 (中学3年生) の進路状況

(人)

進学	就職
6	0

④ 今後の課題

導入時の個別対応、基礎学力・基礎体力の定着、集団活動の工夫、通室生間の人間関係構築。

⑤ 相談状況

相談内容	1	2	3	4	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	計	新規相談件数
	学業	いじめ	友人関係	先生との関係	進路	その他の学校生活	性格	身体	性に関わる問題	親子間の問題	夫婦間の問題	家庭の経済問題	しつけ・生活習慣	家庭生活の問題	家出	盗み・万引き	非行・シンナー等	障害・就学関係	その他	学校復帰者の追指導	情報交換		
電話	13		2	1	17	19	4	25		15			62	17				2	1	3	74	255	
面接	34		5	1	32	20	6	20		26	1	1	65	28				1			19	359	5
小	本人					1				1			11	6								19	2
	親	1			2	6	2	2		9	1		15	11								49	
	学校																				14	14	
	他																						0
中	本人	28		4	19	13	4	15		4			39	10						1		137	3
	親	18		3	30	19	4	28		23		1	62	17				3	1	2		211	
	学校									2											179	181	
	他									2				1									3
計	47	0	7	2	49	39	10	45	0	41	1	1	127	45	0	0	0	3	1	3	193	614	5

(1) 通室生相談

学校適応指導教室内の通室生との相談では、例年『しつけ・生活習慣』に関する相談が最も多い傾向にある。導入期段階の通室生は、生活リズムの乱れが多く見られる為、まずは安定的通室に向けて規則正しい睡眠や生活リズムを指導することが重要となる。また、中学3年生の進路獲得の為の進路指導や学業に向かう為の精神的支えが必要な場合も多くみられた。

21年度から小学生の受け入れが始まり、3名の小学生に対する相談件数が加わっている。

(2) 保護者相談

通室生本人への相談内容と同様、保護者に対しても家庭での生活リズムに対する指導・相談が多い傾向にある。通室当初は保護者と学校適応指導教室との信頼関係づくりからはじまり、回数を重ねて本質的な問題解決へ向けた相談を行っていくことが重要である。

保護者自身の支えとなり、一緒に子どもを支援する姿勢が、安定的通室と学校復帰へとつながっていくように思われる。